

前値に回復したが、肝硬変合併例では遅れる傾向がみられた。4) 肝硬変合併肝癌切除後の $^{13}\text{C}\text{CO}_2$ 排泄率は生存例で1%以下に低下した例はなく、critical pointは1%と推測された。

本法は cholestasis や血流の影響をうけず血流に左右されない簡単に信頼できる検査法と思われるが、さらに症例を重ねて肝機能検査法として確立したい。

27. アメーバ性肝膿瘍7例の治療経験

(東京都立豊島病院外科)

間 浩明, 西川 正夫, 上原 健一
河井 文健, 上谷潤二郎, 小川 一平
佐藤 正典, 片田 雅孝, 江口 礼紀

目的: 近年の画像診断法の進歩により肝膿瘍の診断は容易となったが、アメーバ性肝膿瘍はまれな疾患であり、診断・治療に困難を感じることも少なくない。われわれは、過去5年間に7例のアメーバ性肝膿瘍の症例を経験しており、これら症例について検討した。

成績: 症例は、男性6例、女性1例であり、年齢29~46歳に亘る。海外渡航歴のない症例は3例で、下痢の既往のない症例も2例認めた。入院時には、発熱肝腫大、右季肋部痛を認める症例が多く、粘血便も2例に認めた。赤痢アメーバは糞便中に4例、膿中に3例証明された。血清学的検索は6例に施行している。肝膿瘍は、右葉6例、左葉1例で、全例に外科的治療が行なわれた(経皮ドレナージ5例、開腹ドレナージ1例、膿瘍剔除1例)。薬物治療として6例に Metronidazole と Trinitazole の併用療法が行なわれ、全例とも全治退院している。本症は薬物治療の有効な疾患であるが、ドレナージを含めた外科的治療は診断・治療において極めて有意義と考えられた。

28. アルコール性肝障害一飲み方による影響について

(国立横浜病院消化器科)

林 直諒, 佐々木宏晃, 進藤 仁
橋本 洋

アルコール性肝障害の進展に関与する因子として通算飲酒量と飲酒パターンについて検討した。対象は大酒家12例で、通算飲酒量は純アルコール換算316~1,908KLであった。通算飲酒量1500KL以上A群、750KL以上1500KL未満B群、750KL未満C群と分けて検討した。A群4例の年齢は49~63歳、腹腔鏡所見では白色~斑紋肝が2例、斑紋肝2例で、肝生検所見は初期肝硬変2例、肝線維症2例で、典型的肝硬変は1例もなかった。B群では年齢31~51歳で、腹腔

鏡所見は胆汁うっ滞、斑紋、斑紋結節、結節肝各1例であった。肝生検診断はいずれも肝硬変であった。C群の年齢分布は35~40歳で、腹腔鏡所見は白色肝2例、結節肝2例であり、肝生検診断は3例が肝硬変、1例は肝線維症であった。飲酒パターンでは、一定量長期間のむ安定型は4例で、3例はA群であった。BC群8例中7例は急増型であり、通算飲酒量が少ないのに肝硬変に至るのは、飲酒パターンによると考えた。

29. 日本住血吸虫症性肝障害の臨床的検討

(社会保険山梨病院)

小松 達司, 川村 雅枝, 大谷 智子
広瀬 寿文, 小沢みや子, 茂木茂登子
前田 淳, 井口 孝伯, 小俣 好作
飯田 龍一

当院における肝組織内日本住血吸虫卵陽性症例は、最近2年8カ月間の剖検100例中40例40%、最近7年間の肝針生検604例中73例12.1%である。それらを対象に検討し、日本住血吸虫症性肝病変は超音波検査およびCTにより検出が可能であり、またこれらの画像診断は全体像をとらえるにも適しているが、必ずしも機能的な重症度とは一致しないとの結論が得られた。日虫症性肝病変の癌化については、肝組織内に日虫卵の検出された158例中14例8.9%に肝細胞癌の合併をみたが、日虫症が直接肝癌発生に結びついているとの結論は得られなかった。

30. 中枢性直腸潰瘍について

(聖マリアンナ医大第2外科)

安尾 信, 生沢 啓芳, 後町 浩二
飯島 登

脳疾患に合併する直腸潰瘍を、その病因から「中枢性直腸潰瘍 Neurogenic Rectal Ulcer」として把え、その主因を直腸粘膜血流(以下血流)に求めた。対象は脳疾患患者36例で、これを3-3-9度方式による意識レベル別に3群に分けた(第I群I-1~I-3, 第II群II-1~II-3, 第III群III-1~III-3)。平均血流量は対照群68.0, 第I群66.5, 第II群66.7, 第III群37.1ml/min/100gで、第III群は他群に比し有意に低値であった。第III群の血漿アドレナリン、ノルアドレナリンは対照群、第I群に比し有意に高値であった。血流量とノルアドレナリンとの間には負の相関関係がみられた。以上のこと、および本疾患の自験例や報告例の意識レベルはほとんど第III群に属していることより、本疾患は意識レベルが低く、血流量が低下している状態で発生し、血流量低下には血漿、ノルアドレナリンが